

令和4年7月29日

令和4年度学校関係者評価委員会報告書

四国医療専門学校
学校関係者評価委員会

四国医療専門学校 学校関係者評価委員会は、「令和3年度自己点検・評価報告書」に基づき、以下のとおり、学校関係者評価を実施いたしました。

1. 学校関係者評価委員 [敬称略]

- ・地域住民の代表者
谷川 俊博 (宇多津町長)
- ・学校と関連のある高等学校関係者
大平 徹 (香川県立飯山高等学校校長)
佐藤扶美子 (香川県立丸亀城西高等学校校長)
水兼 博士 (香川県立琴平高等学校校長)
- ・保護者代表者
則久 宗子 (理学療法学科学生の保護者)
- ・卒業生代表者
橋本 純 (鍼灸学科卒業生)
島 かおり (看護学科卒業生)
- ・業界団体の役職者
宮武 功哲 (一般社団法人香川県鍼灸マッサージ師会会長)
大塚 安混 (一般社団法人香川県鍼灸師会 理事)
神高 敏伸 (公益社団法人香川県柔道整復師会 副会長)
田岡 知代 (一般社団法人香川県理学療法士会 理事)
五味 陽子 (一般社団法人香川県作業療法士会 名誉会長)
安藤 幸代 (公益社団法人香川県看護協会 会長)
山田 佳弘 (徳島県トレーナー協会 会長)

2. 学校関係者評価委員会 議事録

- ・開催日時 令和4年7月3日(日) 13:00~14:35
- ・開催場所 四国医療専門学校3号館講堂
- ・出席者
委員:谷川俊博(議長)、大平 徹、佐藤扶美子、水兼博士、橋本 純、島かおり、宮武功哲、大塚安混、神高敏伸、田岡知代、五味陽子、安藤幸代、則久宗子、山田佳弘(則久と山田は委任出席)
学校役職員:
後藤修司(学校長)、笠井勝代(副学校長)、大麻陽子(同)、小森元章(学校事務局長)、襖田和敏(鍼灸マッサージ学科・鍼灸学科学科長)、山本幸男(柔道整復学科長)、松本嘉次郎(作業療法学科長)、中江秀美(看護学科教務主任)、六車輝美(看護学科長)、加納賢一(スポーツ医療学科長)、穴吹泰典(理学療法学科主任)、山下久美子(学科改編委員会看護部会看護室長・看護学科専任教員)、入江和子(同看護室長補佐・看護学科専任教員)、青木みゆき(学校事務局学務部長) 山下博志(学校事務局総務部長/進行・書記)
- ・欠席者:学校役職員/高橋謙一(理学療法学科長)、山川公彦(学校事務局入試・広報部長)
- ・議事の経過及び結果

1) 開会

山下学校事務局総務部長より、開会を宣する旨の発言があった。なお、新型コロナウイルス感染症(以下「コロナ」という。)の感染防止の観点から、委員及び学校役職員の紹介は出席者一覧表及び配席表をもって代え、時間内での効率的な議事進行を図りたいと説明があった。

2) 学校長挨拶

後藤学校長より、まず委員に対し本委員会出席に対する謝意があり、次いで令和3年度の自己点検・評価及び今後の教育・学校運営に対し忌憚のない意見・提言等をお願いしたいと挨拶があった。

3) 委員会成立確認及び議長選任

山下学校事務局総務部長は、委員総数14名全員の出席（うち2名は委任出席）をもって本委員会が成立したことを報告した。また、委員による互選の結果、谷川俊博委員が議長に就き、挨拶を述べた。

4) 議案の審議

1. 令和3年度自己点検・評価について

議長の指示により、山下学校事務局総務部長は、「令和3年度自己点検・評価報告書」に基づき、その概要について説明を行った。

以上の説明を受け、議長が委員に対し意見・質問を求めたところ、次のとおり意見・質問があった。質問に対する教職員の回答を含め、発言順に記す。

・佐藤委員（香川県立丸亀城西高等学校校長）

- ①経済的理由による退学者が5人いたとの報告があった（報告書「学生支援/中途退学への対応」45頁）が、再入学が可能な体制を整えているのかを教えてください。
- ②国家試験合格率（報告書「学修成果（学校全体）」27頁）を踏まえ、不合格者のサポート体制についてどのようにしているのか、お聞きしたい。
- ③「教育目標と本年度の重点目標の評価」の「課題と解決方策」（報告書4頁）において、『各部署・組織のスリム化』が課題として挙げられているが、「働き方改革」については着手されているのか。本校では遅々として進まないのでは是非教えてください。

・青木学務部長 [回答]

- ①学生募集要項（3頁）に記載のとおり、退学者の再入学の制度を設けている。ただし、近年は退学者の再入学はなかったと思う。
- ②聴講、科目履修、模擬試験の実施等学科毎に対応しているが、学校として国家試験の合格まで支援するという考え方である。

・後藤学校長 [回答]

- ③週5日・40時間の勤務体制を採っており、夜間部のある鍼灸学科や柔道整復学科では、曜日によって午後から夜間までの勤務とするなどし、所定の労働時間を超過しないようにしている。もちろん、今日の本委員会もそうだが、オープンキャンパスや入学試験等で休日出勤する場合もあるが、その場合には関係法令に従った対応をしている。なお、今後も「働き方改革」の考えに沿って努力したい。

・大平委員（香川県立飯山高等学校校長）

- ①高校としてまた保護者として、大学・専門学校においてどんなことを学べるのかということが気になるところだ。その集大成である国家試験で、若干名から数名程度が不合格になっていることから—佐藤委員の質問と重複するが—一次年度の試験に向けてどうフォローしているのか、その支援体制について教えてください。保護者の立場からすれば、「最後（合格）まで面倒を見てくれるのなら、その学校に進学させようか。」という気持ちになる。
- ②これも佐藤委員の質問と重複するが—「働き方改革」に関し、時間外勤務について教員の教育負担軽減策について教えてください。
- ③各学科で標榜している資格以外で、補助的に取得できる資格について、教えてください。
- ④夜間学科の鍼灸学科2部、柔道整復学科2部及びスポーツ医療学科の募集を停止した（報告書「学校運営」7頁）とお聞きしたが、新学科の設立についてはどのような構想があるのか。また、旧香川県立三豊工業高等学校跡地を取得したと伺ったが、その活用（例えば大学設置等）についてはどのように考えているのか、お教え願いたい。

・後藤学校長 [回答]

まず、④について回答する。学校経営の観点から入学者数・在籍者数が芳しくない学科は残念ではあるが、学生の募集停止、廃止することはやむを得ないと思っている。大学設置

については、最短でも開学まで3年を要するし、財政や教員確保の観点からクリアすべき課題も多い。先般、一部新聞には理事長の大学設置への思いも掲載されたが、現時点では大学設置が決定しているわけではない。理事会でも大学設置検討委員会でも協議中であり、時間を要する。また、大きな財政的負担も強いられる。したがって、新学科の設置を含めてまだ結論を出しているわけではなく、いろいろな検討の段階というところである。

②に関しては、学生の多様化に伴い学生指導の時間に教員の時間の多くを割く必要が出てきているし、また個々の能力向上のため教員自身の研修の時間も確保しなければならない。それでも、時代の流れに沿って「働き方改革」を進めていく必要があるため、どのような方法・対策があるかについて、学科改編委員会で協議し検討しているところである。

なお、①と③については各学科から説明させる。

・**徳田鍼灸マッサージ学科・鍼灸学科学科長** [回答]

①国家試験不合格者と個別に面談をし、合格に向けた対策を協議するとともに、不得意科目の聴講や校内模試・業者模試の受験を行っている。

③コロナの影響により認定規則に定める学習量が増えたため、まずはそれぞれの国家資格の取得に注力している。そのうえで、任意ではあるが、トレーニング指導者（特定非営利活動法人日本トレーニング指導者協会）、医薬品登録販売者の取得を支援している。

・**松本作業療法学科長** [回答]

①聴講、月1回の集中講座及び模擬試験受験からの選択制としている。なお、県外者については模擬試験問題を郵送し、それを解答してもらっている。

③福祉住環境コーディネーター2級（東京商工会議所）、初級障がい者スポーツ指導員（公益財団法人日本パラスポーツ協会）の資格取得を目指し、ビジネス能力検定3級（一般財団法人職業教育・キャリア教育財団）を受検している。

・**穴吹理学療法学科主任** [回答]

①自習スペースを提供し、すぐに質問ができる環境を整えている。また、模擬試験も行っている。

③作業療法学科と同様、福祉住環境コーディネーター2級、初級障がい者スポーツ指導員の資格取得を目指しており、社会人基礎力検定（一般社団法人社会人基礎力検定協会）の受検も行っている。

・**山本柔道整復学科長** [回答]

①自習スペースを提供している。ただし、県外者は利用が少ない。

③任意であるが、トレーニング指導者、初級障がい者スポーツ指導員の資格取得が可能である。

・**六車看護学科長** [回答]

①以前の不合格者には来校してもらい補講を行っていたが、近年は別の業種に就職している者が多いため、来校してもらいにくい環境にある。そこで、予備校等を紹介している。もちろん、学科としては適時に本人に連絡し、国家試験受験に向け意識・意欲の維持・継続に努めている。

③九州保健福祉大学（通信教育）の併修を必須としており、これまでの本校卒業生は大学も全員卒業している。また、看護師養成所の専任教員の資格が取得可能なカリキュラム編成となっている。そのほか、近年は大学院や助産師・保健師専攻科への進学も増えてきている。

・**加納スポーツ医療学科長** [回答]

①本学科は公益財団法人日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーの認定コースであるが、この資格取得のためには、まず理論試験に合格し、その後総合実技試験に合格しなければならない。令和3年度卒業生は理論試験合格者が7人（11人受験）、総合実技試験合格者3人（7人受験）であった。不合格者は就業している者が多いため、週に1、2日のペースにはなるが来校して学習している。ちなみに、総合実技試験に2回不合格となってしまうと180時間の再学習が必要となるため、不合格者は自ずと意欲が高まる。合格率については同協会からの公表はないが、理論試験の合格率は概ね30%未満と言われており、本校では令和3年度の合格率が63.6%と、全国でもトップクラスと

言える。なお、本学科は本年度末をもって廃止となるため、最後の卒業生となる2年生についても有終の美を飾るべく、毎日補講を行っている。若干名の卒業生にお願いして研修生として支援をしてもらっている。

③アスレティックトレーナーが難関の資格であることから、全員がトレーニング指導者の資格を取得できるようカリキュラムを編成している。

2. 教育・学校運営に関する意見交換

議長より各委員に対し意見・提言を求めた。委員の意見等及び学校教職員の回答等は次のとおり。

・水兼委員（香川県立琴平高等学校校長）

高校では GIGA スクール構想により、生徒1人に1台のタブレットが配付されているが、どのように使っていけばよいか、頭を悩ませているところだ。貴校では ICT 教育や VR 技術を使った授業と、SNS を活用した学生募集を実践しているようだが、特に SNS はホームページより頻繁に更新が必要だと思う。貴校ではどの部署の方が担当し、どの程度の頻度で更新しているのかを教えていただきたい。

・小森学校事務局長 [回答]

生憎、入試・広報部長が出張により欠席しているため、SNS については明確な回答ができないが、入試関係では新たにインターネット出願を始めた。ICT 教育に関しては令和2年度から Wi-Fi 環境を法人事務局と交渉し予算措置を講じて導入した。同時に、看護学科で電子テキストを導入した。それを取扱う教職員の研修も行った。以下、看護学科から具体的に説明する。併せて、VR 授業を行っている柔道整復学科からも説明する。

・六車看護学科長 [回答]

本学科では2年前から電子テキストを導入している。電子カルテや動画の取込みが可能のほか、学生が書き込んだ内容を即時に見ることができ、学生毎の習熟度がその場で確認できるなどメリットは大きいと感じている。

・水兼委員

それらの書き込んだ内容は端末に保存するのか、クラウドに保存するのか。

・六車看護学科長 [回答]

試行錯誤しているというのが正直なところだ。クラウドだといずれデータが消えてしまうので、今はアプリケーションをダウンロードして保存している。

・山本柔道整復学科長 [回答]

看護学科と同様、本学科の VR 授業も2年目で試行錯誤しながら実施しているところである。効果はそれなりにあると感じてはいるが、たまに VR 酔いをする学生がいるため、その対応が悩ましい。

・宮武委員（一般社団法人香川県鍼灸マッサージ師会会長）

報告書「学生の募集と受入れ/学納金」(57頁)に、『(授業料を)直近では平成30年に改定している。』とあるが、これは定期的に見直しているのか、不定期なのかをお聞きしたい。

・後藤学校長 [回答]

授業料等学費については法人で決定するものであるが、その必要があるときに見直し・改定しているため、定期的に見直しをしているわけではない。なお、本校の場合、「学科により入学金が異なっているのは何故か。」という質問をいただくことがあるが、これは学科の特性に由来するもので、例えば鍼灸マッサージ学科であれば一本校他学科に比べれば確かに高いということになるかもしれないが一同種の学校ではある程度横並びの入学金に設定されており、珍しいことではない。大学でも学部によって入学金が異なることはあると思うが、そう考えてもらえればご理解いただけると思う。

・大塚委員（一般社団法人香川県鍼灸師会理事）

貴校卒業生の本会会員は多く、理事にも就任いただいていることから、「四国医療専門学校 学校の繁栄＝香川県鍼灸師会の繁栄」と捉えており、一蓮托生と考えている。

さて、コロナの蔓延により、デメリットが多かった一方、メリットもある。例えば東京で研修がある場合、従前なら旅費交通費で最低でも数万円はかかっていたが、Zoom によ

る研修が可能となった今はほとんど経費をかけずに研修への参加が可能となり、参加者数も随分と増えた。また、コロナ禍で十分に仕事ができなくなった中でも、地道に自己研鑽を積んできた者とそうでない者との明暗が、ある程度コロナ禍が落ち着いてきた今、表れてきている。卒業（資格取得）後も、しっかりと勉強をしないといけないし、そうしないと時代の流れについていけなくなる。そういったことも在学中に是非教育してほしい。

・**神高委員**（公益社団法人香川県柔道整復師会副会長）

貴校では令和5年度生から2部（夜間部）の学生募集を停止すると聞いたが、今後の課題は2つあると思う。ひとつは、国家試験に合格しても3年間の実務研修を経なければ開業できなくなったということであり、もうひとつは、規制緩和により柔道整復師学校養成施設が今や100を超えており過当競争になっているということである。したがって、貴校にはより一層学生募集に力を注ぎ、同時に教育にも努めてもらい、優秀な卒業生を輩出してもらいたいと考えている。

・**安藤委員**（公益社団法人香川県看護協会会長）

貴校のタグラインを拝見したが、もう少し学校がPRできる内容にしたほうがよかったのではないかと思います。

さて、臨地実習に関して、コロナ禍により学校側も受入れ側も苦労したことと思う。このような時代だからこそ、学生には実習時に患者とのコミュニケーションを図ることの重要性を説き、立派な看護師を養成するようお願いしたい。

近年、大学で看護師養成を行うところが増え、300校近くになっている。今後、保健師や助産師の資格取得に向けては大卒の資格が必要になる可能性があるが、その点、貴校では大学併修によりそれが実現できるため、業界として安心して見守ることができる。

・**五味委員**（一般社団法人香川県作業療法士会名誉会長）

コロナ禍により、学生の臨床実習の機会が減少し、患者とのコミュニケーションを図る機会も減ってきている。加えて、マスク越しだと、相手の表情が読めない、感情が読めないということになるため、学生はそれらが克服できるよう、先生方には工夫して教育してほしい。そして臨床実習後のフォローをしっかりと行い、卒業生を業界に送り出してほしい。

・**田岡委員**（一般社団法人香川県理学療法士会理事）

コロナ禍により、学校の授業や臨床実習はもちろん、日常生活でも対面の機会が少なくなっている。もともと相手の表情を見るのが苦手な若年者が多くなってきている中で、悩みを抱える者がより増えているのではないかと思います。したがって、卒業生の協力を得て、悩みや困っていることを打ち明け、解決の道を探ることのできるような仕組みを作ってみてはどうかと思う。逆に、職場でも上司と部下の関係ではなかなか本音は出ないため、貴校がかすがいいになってくれればありがたい。

・**島委員**（看護学科卒業生/病院勤務）

学生の満足度調査報告の中で「『学校をやめようと思ったことがある。』」の回答が50%あったものの、視点を変えると『やめようと思ったが思い留まらせた。』と言えるのではないかと。という報告があったが、このことは学校が学生に対ししっかりした取組みをしてくれているという証左ではないかと思う。卒業後、現場で働いていく中で、上司・先輩の意見も聞くことで更に能力が高まる。

なお、報告の中で、「同窓会との連携」という項目があったが、具体的にはどのようにしているのか、お伺いしたい。

・**六車看護学科長** [回答]

卒業生に来校してもらい、OSCEに患者役で参加してもらい、病院等での仕事の話をしてもらう等、学生には仕事との距離を縮めてもらおうと計画していたが、昨年度はコロナの影響で実施できなかった。今年度については卒業生との対話の機会を設けるべくその計画を立てている。

・**橋本委員**（鍼灸学科卒業生/鍼灸院開業）

私自身は在学中の3年間で多くのことを学んだと実感している。今はその当時より学習量が増えたとの話を聞いたが、充実した学習環境を提供できるということを説明し、それを理解してもらおうことは必要だと思う。

今の時代、就活はほとんど SNS で行っている。したがって、学生募集も若年者が見そうなコンテンツを提供し、もっと楽しい学校の雰囲気を知ってもらうことが肝要だと思う。

卒業後の進路については、卒業生（先輩）との連携を強め、特に開業ができる資格ならではの経営面の話（稼げるのか、儲かるのか、夢があるのか）について若年者に知ってもらうことが、若い世代の人達の入学増に繋がるのではないかと考える。

最後に、議長より以下のとおり総括があった。

時代はアナログからデジタルへと急速に変わってきている。しかしながら、そのデジタル化が最も遅れているのが行政である。行政はデジタル化への移行はなかなか難しいと実感している。おそらく学校も同じような状況だろう。ただし、時代は容赦なく急激に変わっており、それらを取捨選択する時代になってきていると思う。「強い者、賢い者が生き残るのではない。時代に合った者が生き残るのだ。」

デジタル化—例えば、Zoom で会議も、指示も、決裁も全てできる。従前は首長が出張する際には職務代理者を立てていたが、今はその必要がない。これはコロナ禍により新たに発見できたことのひとつだろう。もちろん、アナログを排除するものではなく、アナログとデジタルをどう連携させていくかが課題になる。要は、どこを変えて、どこを変えないかを選択することだ。

少子化の影響で学校経営は厳しいが、役職員が一致団結して頑張ってもらいたい。専門的分野を極め、それに特化することは生き残るひとつの道ではないかと思う。

今や、地域コミュニティは崩壊寸前まで来ている。宇多津町の自治会加入率は古街を含め 29% である。また、宇多津町はこれまで人口増加の一途だったが、昨年度初めて人口減少に転じた。今後は転入者をいかに増やすかが課題だが、住宅メーカー等に入居者のニーズを聞くなどして人口増加に向けて対策を立て、一歩踏み出したところである。学校においては学生・保護者、卒業生等に話を聞き、そのニーズを掴むことが非常に重要だと思う。地元の学校として、貴校の今後の更なる発展を期待する。

6) 閉会

谷川議長より、議題は全て終了し、本委員会を終了する旨を宣した。

以上